

日吉台地下壕保存の会

## 会 報

## 第9号

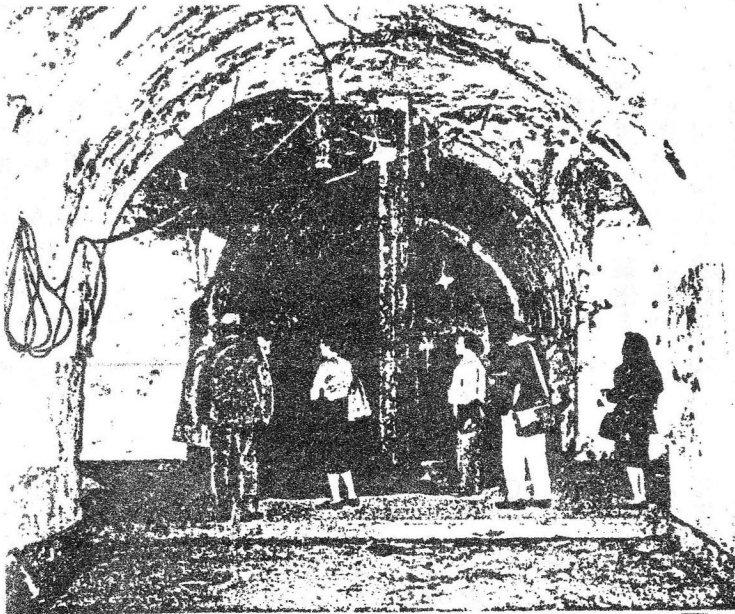
発行 日吉台地下壕保存の会

編集 事務局

〒223

横浜市港北区下田町3-15-27

TEL 045-562-1282 (寺田貞治方)



自衛隊市ヶ谷駐屯地にある旧陸軍作戦司令部の地下壕

目次	頁
○新しい年のはじめに	1
○第4回幹事会報告	2
○第5回幹事会報告	3
○第6回幹事会報告	4
○市への報告書に就いて	5
○日吉台地下壕を見学して	6
○地下壕見学会に参加して	7
○地下壕を見学して	7
○地下壕見学ツアー総括	7
○編集後記	8

## 新しい年のはじめに

会長 永戸多喜雄

日吉台地下壕保存の会は、この4月に設立二周年を迎えようとしています。この会が出来るまでは、太平洋戦争の狂気の時代が生んだ、あの巨大な地下構造物について、多くの人々の目に触れることもなく、その存在を忘却の彼方に忘れ去られようとしていました。ところが、いつも戦争と平和の問題を考えずにはいられない市民有志が、忘却を拒み、地下壕保存の会を結成して文字どおり地道な活動をはじめた結果、それまではせいぜい噂話か個人の記憶の中に封じ込められていた日吉台地下壕が、いまでは公の存在となり、より多くの人びとの関心を惹きつけています。地元である横浜市港北区の区役所内には、地下壕保存をめぐるプロジェクトチームが組織され、そのチームから市への報告書を提出済みで、行政機関が何等かの動きを示す可能性も出てきました。そのような状況の中で一番重要なことは、この地下壕保存の会が、これまでの成果を踏まえて、どのように主体性のある運動を進めるかにあると思います。

もともと誰に強いられるでもなく、何かに唆されるでもなく、自らの意志で寄り集まった有志の組織である保存の会は、人類の命運をもてあそび、何でも政治の道具や商売の種にするような人々とは無縁であり、どこまでも自らの責任で、主体性のある運動を続けたいものです。

## 第4回幹事会△云報生口

日時 10月17日

午後5時半

場所 藤山記念館中会議室

出席者 幹事その他、区役所職

員・コンサルタントな

ど区のプロジェク

トムのメンバーが出席

区役所から

幹事会を始める前に「日吉

台地下壕利用計画策定調査」

に就いて、説明があった。

1. 自己紹介

2. 川久保氏(区職員)の挨拶

3. 桜井氏(コンサルタント)

より「日吉台地下壕利用計

画策定調査」の報告書に沿

って、説明があった。

○日吉台地下壕のことは、街

造りの資源調査をしている

中で出てきた。

○地権者の意向を充分考慮し

なければならぬ。

○アメニティ資源をネットワ

ーク化し、日吉台地下壕も

それに組み込む。

○歴史的事実を伝え、学習す

る場として保存・公開を考

える。保存・公開にはかな

り時間がかかる。まずは記録の保存からはじめ、安全性に関する調査をして、保存・公開に持っていく。

質疑応答

Q. 谷氏：市に対してどの様に要望を出しているか。

A. 川久保氏：平成3年の予算案の中に繰り込んでもらうように要望を出している。

当面、記録の保存・パンフレットの作成などと、勝手に壕にはいれないように柵をするように要望している。

調査(強度など)までは区は対応できない。

Q. 茂呂氏：事業化するときの市の窓口は何処か。

A. 川久保氏：教育委員会、都市発展記念館(文書課)、観光課などであるが、観光課はかんがえられないので他の2つであるが、教育委員会では明治以前しか取り扱わないので、文書課ということになる。

Q. 茂呂氏：予算としてはどのぐらいの額を考えているか。

A. 川久保氏：ビデオと出

版物で200萬〜300萬ぐらいを考えている。

補足意見

○桜井氏：保存の会から、市長に要望書を提出すること

も必要ではないか。

○寺田氏：他の保存会では初めから署名や請願活動をやっているが、我々の会は区役所が動いているので事情が異なるが、いずれ請願活動を考えなくてはならないかも知れない。

○川久保氏：保存・公開するにしても、管理は第3セクター方式になるのではないか。

「これより幹事会」

報告事項

事務局長より

1. 会員数 299名

(10月16日現在)

2. 10月5日：区役所で、

職員の川久保氏と地下壕保

存に就いての市への報告書

に就いて、話し合う。

10月17日に慶應大学

藤山記念館大会議室で(当

初は16日に区役所内の予定であった)、4時から5時半までプロジェクトチームの会合を持つことになった。

3. 10月13日：日吉地区

センター主催で地下壕見学会を実施した。数日で定員の30人の申込があった。

その他、海上自衛隊の二等

海佐の方や、カナダから国

が招いた埼玉県立蕨高等学校

校英語指導助手のシンシア

・パラバードという方が参加された。参加者は我々も含めて35名であった。

4. 10月15日：会報第8号発行。

5. 10月17日：4時より

プロジェクトチームの会合

5時半より幹事会。

6. 11月10日：慶應生協

学生会主権の地下壕見学会を予定。午後1時より

4時まで。

7. 12月1日：陸軍参謀本部地下司令部跡見学会。土

曜日午後2時、JR中央線市ヶ谷駅前集合。参加申込

期限は10月31日。

(見学会は上記の海上自衛隊の方に依頼してある。)

### 議事

1. 区から市への報告書「日吉台地下壕利用計画策定調査」に就いて

2. 今後の活動計画に就いて  
○調査活動：まだ調べなくてはならないことが沢山あるので、調査は続けなければならない。

○見学会：12月1日、市ヶ谷の地下壕(陸軍参謀本部地下司令部跡)

11月10日、慶應生協学生委員会の日吉台地下壕の見学会。

○ヒアリング：旧登戸研究所の話聞く。

○学習会：(亀岡氏) 国防婦人会など戦時中に女性も戦争に協力し、加害者の一旦を担っていたことなどについて話を聞きたい。このような勉強会を開いてほしい。  
○PR活動：地下壕見学者に配ったりするパンフレットを作成する。来年度の区のパンフレットの作成の計画に乗ることも考えられる。

(茂呂) 地下壕見学のマニュアルを作ってほしい。

3. 会報第8号について

(中沢) 誤植が多いので次回からは何人かの目を通して校正し、余裕を持って発行する。発行の作業するときには1週間ぐらい前にいつてほしい。

4. 会報第9号の発行について  
て・12月に発行する。

5. その他

○(寺田) 学習会は、小園さんに「学童疎開」「国防婦人会」の話をして頂くように頼んでみたかどうか。  
亀岡さんの方で具体的に話を進めていただければ・と思う。

○(中沢) 2カ月に一回保存会として行事をやらないと、何をやっているのかと思われるのではないか。

○(寺田) 幹事会の忘年会または新年会をやるかどうか。(新年会をやることになった)

### 第5回松竹車争△△報出口

日時 11月20日

午後5時半

場所 藤山記念館中会議室

### 報告事項

事務局長より

1. 会員数2299名

(11月19日現在)

団体会員11組

賛助会員44名

2. 10月18日：朝日新聞

HAMAYOU記者取材。

3. 11月2日：神奈川新聞

に区から市への報告書に就いての記事が掲載。

4. 11月3日：生協東京地

連平和フェスティバルで地

下壕の展示と講演。

5. 11月6日：朝日新聞

HAMAYOUの欄に地下

壕の紹介記事が掲載。

6. 11月10日：慶應生協

学生委員会主催の見学会。

学生個人参加36名、団体

参加27名(体育会バレー

ボール部員26名とコーチ

1名)、社会人2名、毎日

新聞記者1名参加。

(この時の記事が21日の毎

日新聞「いま、キャンパス」の欄に掲載予定)

7. 11月15日：TBS

「ニュースの森」取材班を案内して地下壕をビデオに収録。(放映は21日6時からのTBS「ニュースの森」でやる予定)

### 幹事より

(小園) 洪さんという人が、

よく国会図書館に來ているので、来たときに話し合っ

たらどうか。李さんという

人を知っているので連絡を

とり、朝鮮人学校の先生と

の交流をして、地下壕の朝

鮮人労働者のことを聞いて

みたかどうか。

### 議事

1. 区から市への提出書の内

容について

2. 今後の活動について

○見学会：市ヶ谷の地下壕

の見学会(12月1日予定)

(寺田) 14名の参加申込が

あった。(この後2名取消

6名追加)

○ヒアリング：登戸研究所

に就いて

(小園) 法政高校の渡辺先生

が、11月一杯は休み12月から学校に出られるが、年内に話を聞くのは無理である。先生も保存会と連絡を取り合って活動を進めたいとのことであった。

OPR活動・パンフレットの発行

(寺田) 早急にパンフレットの原案を考えてみんなに計って、3月までに作成する。

○署名運動、陳情行動・・・

まず保存会として市長に陳情書を提出したらどうか。

総会に計ってからやる。  
その前にパンフレットを作  
っておく。

3. 会報第9号の発行について

12月上旬に発行。本の紹介も入れるとよい（小園）。見学会の感想などの原稿や、区から市への報告書などがあるのでそれを載せれば発行できる。

4. 幹事会の新年会について  
1月11日(金)5時半より、日吉本町の鮎辰。会費5000円。幹事会も兼ねる。

第6回幹事△云報出口

日時 1月11日午後5時半  
場所 日吉本町の「鰯辰」  
報告事項

事務局長より

1. 会員数 302名

(1月10日現在)

団体会員 11 組  
賛助会員 4 名

2. 11月21日：TBSテレビ・ニュースの森で午後6時30分より、約10分にわたって日言台地下壕について放映された。

また、11月10日に行われた慶應生協学生委員会主催の「地下壕見学ツアー」の記事が、毎日新聞「いまキャンパス」で掲載された。

3. 12月1日：保存の会主催で、陸上自衛隊市ヶ谷駐屯地にある旧陸軍参謀本部作戦司令部の地下壕を見学した。参加者12名。

4. 12月14日：慶應生協  
ニュース教職員版54号に  
保存会の活動に付いて掲載  
された。

議事

1. 会報第9号の発行に付いて・・発行が予定より遅れているが、1月中旬には発行したい。

2. 第3回総会の準備に付いて

(1) 日時・4月中に開催する。地方選挙とぶつからないように注意する

(2) 役員の候補者の人選  
良い人がいたら推薦してほしい

(3) 議題  
署名運動、陳情運動その他の活動に付いて、あらかじめ承認と、ご協力をお願いする。

(4) 進め方 (1案として)  
2時〜3時：日吉台地下壕  
や松代の地下壕のビディ  
オを見せる。

3時～4時：総会  
4時～5時30分：謀略秘

密基地・登戸研究所につ  
いての講演

3. 今後の活動に付いて  
○見学会・日吉台地下壕ま

たは他の地下壕の見学会  
○PR活動・パンフレット

の發行を總會までにやる。

4. その他

(茂呂氏) 横浜市の予算案を見たが、地下壕保存に関する予算が何処に入っているか分からなかった。また

○(事務局長) 予算に付いて、学生が入ったとき、地下壕の水が汚されていて、地主の方から強く注意を受けた。

は、額が大きくないので何処かの項目に入っていても分からないのではないか。

た、地主からの注意に付いては聞いている。確かに人数が多くて、注意が行き届かずまづかった。今後は、

20 数名以下に制限しな  
ねばいけ  
ない。

○今後の活動の進め方に付いて・・・（事務局長）何もし

なければ保存・公開にはならないだろう。まず、保存会として市長や市議会議長に陳情することが考えられ

る。更に幅広く署名・陳情活動を時期を見てやる必要

があるのではないか。松代や高槻など保存会結成後ま



もなくやっているところが多い。

5. 幹事会終了後、新年会、保存会の活動、世界情勢教育など、様々な話題に付いて話がはずみ、和やかに過ごした。

## 市へ報出日書

### に就いて

報告書の題目は「日吉台地下壕利用計画策定調査」となっている。内容の項目は次の通りである。

#### I. 背景と目的

1. 日吉台地下壕
2. 日吉台地下壕をめぐる問題点
3. 日吉台地下壕をめぐる動向
4. 本調査の目的

#### II. 日吉台地下壕の概要

1. 日吉台地下壕の概要
2. 各地下壕の概要
3. 連合艦隊司令部地下壕の概要

#### III. 地下壕及び周辺の現況

1. 日吉台地下壕周辺の現況

#### 2. 都市計画及び土地利用規制等

##### IV. 構想

1. 現況の整理
2. 地下壕の内包する問題点の整理
3. 地権者の意向
4. 地下壕の意義
5. 構想

これらの項目の中、最後の項目の構想に就いては、次のように述べている。

日吉台地下壕の空間的、歴史的な特質を活かした活用方法として例えば、平和記念館、パイオ研究所、歴史資料館、備蓄庫などが考えられるが、それぞれ実現に当たっては多くの課題を抱えており、短期的にはそれらの実現は難しいと思われる。

日吉台地下壕の第一の意義は戦争の証人であるということとであるから、まずは、その記憶、記録を後世に伝える方策を考えることが重要である。また、地下壕そのものにも、あまり良い印象をもっていない、観光気分で大勢の人にきても、いらいたくないといった地権者

の意向を考慮すると、観光資源的な扱いはすべきでない。

さらに、第2次世界大戦そのものに対する考え方と同じように地下壕に対する考え方、も各個人によって異なるであろうから、日吉台地下壕に例えば平和の象徴として、あるいは鎮魂の碑としてといった性格を付与することは好ましくないと思われる。あくまでも事実を客観的に伝えるべきであろう。

最も良いのは地下壕を現況のまま保存し、人々にその存在を知ってもらい、また内部を見学してもらうことにより、かつて日本においてどのような歴史があったか、また戦争というものがどのようなものであるかを認識してもらうことであろう。

ただし、地下壕内における事故を防ぐことがまず最優先される。そのため日吉台地下壕の整備の構想としては、次のような段階による整備が望まれる。

- 1 日吉台地下壕に関する記録の保存

日吉台地下壕の歴史、建設に係わった人々や実際に使用した人々の証言、当時の状況、現在の状況など日吉台地下壕に関する記録を保存する事が最も優先されるであろう。

その方法としては、ビデオ、写真集、パンフレットなどが考えられる。

また、日吉台地下壕が存在するもしくは存在していたことを人々に知ってもらうために、地上部に日吉台地下壕があることもしくはあったことを記した碑や簡単な説明をつけた看板などを設置することも考えられる。

#### 2 安全性に関する調査

地下壕崩落の危険性や地上部に与える影響などを調査し、特に危険な場合、埋め戻すなどの処置を取ることも必要になってくるであろう。

また、地下内部での事故を防ぐために、勝手に地下壕に入れないよう、入口を封鎖するなどの処置も必要であろう。

- 3 保存および研究対象としての公開

地下壕内部でも特に重要な

部分でしかも比較的構造もしっかりしている連合艦隊司令部跡について保存し、研究対象として公開する。

観光資源的な扱いではなく、やはり歴史的な経緯を考慮して厳肅な空間として保存を進める。

安全性については専門家による詳細な調査を実施し、定期的に検査し、もろくなっているところを補強する。

地上部の開発に際しては地下壕への影響を調査し、場合によっては開発の規制についても考える。

また、地下壕や戦争もしくはそれらに係わることなどについて研究を進める上で必要であるならば、地下壕内部を公開する。

ただし、興味本意の入構は好ましくない。また地権者の迷惑も考えるとあまり頻繁に入構することも好ましくないことから、見学希望者の選定に配慮するとともに、見学者に対して事前の説明会を実施するようにする。また、内部での事故を未然に防ぐため、

必ず見学に際しては案内をつけるようにする。

#### 4 一般公開

一般公開に当たっては入口の確保、安全性の確保、権利関係の整理などいくつかの課題があると思われるが、より多くの人々に日吉台地下壕について知ってもらい、戦争や平和や、歴史など様々なことについて考える機会を提供するために、条件が整えば一般公開についても積極的に検討する。

基本的に予約制にし、定期的に見学者を案内するという方法が望ましいと思われる。

また、地下壕の目的やどういう風に作られ、そしてどういう風に使われていたかを知識として正しく伝えるために、事前にオリエンテーションを実施するようにする。

例えば、シンポジウム、講演会などのイベントと組み合わせた公開も考えられるであらう。

### 日吉台地下壕 を見学して

下田町 有吉 霞

十月十三日生憎の雨だが服装は長靴・雨具とふさわしい出で立ちで地下壕見学に参加した。先ず寺田先生の御説明を聞いてから、いよいよ現地の入口に着いた時は一種の感慨があった。昭和二十六年に日吉に越し来たが、慶應のキャンパス内に旧海軍司令部の巨大な地下壕が残っているとこの話は聞いていて、「こんな山の方まで海軍司令部が来る様では負けても当然」などと思っていたので・・・

足元を注意して大廊下と言われる乾いたトンネル内を進み、上層部員のための色々の部屋、設備の説明を懐中電灯の光の中で受けて大戦末期の有様も覗えた。枝道にかかる足元は急に泥田のようになり、長靴はズブズブと沈んでその上、中央部に幾つかのマンホールがあり、一行はトンネルの端を注意して進む。左右に穿った小部屋や通路に折々天井から細い鍾乳石が垂れ

下り、井戸の取水口には以前鍾乳洞でみた奇怪な乳白色の流れが出来ていた。改めて大戦後の年月の長さを想った。洞内で見られる2種の沢蟹とゲジゲジ、唯一の植物の菌類を見て引返すことになる。

見せて頂いたのは壕内の主要な箇所部分と思うがどのくらいの距離を歩いたものか、結局は無駄に等しい事のため沢山の人が犠牲者までだして作ったとは。出口の近くですべての電灯を消して1分間の黙祷をして冥福を祈り無事に現実の世界に戻ってきたが、文字どおりタイムトンネルを経験させて頂いた意義ある探索行きだった。この催しに感謝すると共に、この戦争の生き証人のような日吉台地下壕を保存することは、戦争を生きた人々や又それを知らない若い世代の人達のためにも大切なことで、その事では地下壕は徒勞では無かったのかも知れない。

今回の参加で本当日吉の住民になった気がして寺田先生に厚くお礼申し上げます。平

和の願いをこめて「戦争を語り継ぐ」はゆつくり読ませて頂く事にした。

秋霖や胸の支えし地下の壕

## 地下壕見学子△△に参加して

日吉本町 梅沢精子

先日、日吉地区センター主催の地下壕見学会に参加させて頂いた者です。

日吉に生まれ育ちながら、話には聞いていても実際にみる機会が無いまま今日まで来ました。(大聖院の地下壕では遊んだ事があるのですが)

終戦の時に小学校1年生、はつきりした記憶はありませんが、かまぼこ兵舎の教室で勉強したこと、その兵舎が海軍の遺産であり、その下に地下壕があり、その地下壕を今見学している。

そして、この地下壕を掘るために動かされていた朝鮮の人、その朝鮮人の子供達と遊んでいた事、先生のお話になっていた焼夷弾の事、四月十五日の空襲で焼けてしまった実家の事、落下傘でおりた米

兵の捕虜の事、箕輪池で泳いだ事(その池の水が飲料水だとは知らず)、記憶の糸がだんだんつながってくるような貴重な体験をした一日でした。

今、自衛隊の海外派遣など、危ない話を持ち上がっている現在、戦争の記憶を消さないためにも、戦争の遺物として多くの人にもっと知ってもらう機会が出来たらと思います。

鍾乳石が出来るまで長い年月ほって置かれながら、もとの姿を残しているこの地下壕を、これから先もずっと保存できれば素晴らしい事だと思います。

保存会には是非入れて頂きたいと存じます。よろしくお願い致します。

## 地下壕を見学して

日吉 森田権三郎

雨天にもかかわらず寺田先生に懇切に現地御案内に頂き有難う存じます。

私は東京空襲時、旧海軍

(板橋)兵器行政本部に在り兵器工場の監督官をし、その後択捉島守備隊で地下壕で執

務経験在り(最後はシベリアに3年抑留)且つ次男が慶大経済出身であるだけに非常に関心を持って見学させて頂きました。

1. 私の塹壕とは勿論比較とならぬ立派な壕で設備も立派でしたが、壕内軍務の共通のな苦難の跡が目当たりに見られ感無量。

2. 折角立派な古跡を永久保存すべく御努力の点感謝に堪えず、それに比し行政当局の経済的その他配慮極めて不十分と感じ。

3. 今後、後世にこの史跡・史実を伝えるために、更に大活動の必要性を痛感。(残念ながら私は年金生活者で経済的支援は出来ませんが)取敢えず

① 国、県、市、当局へ史跡保存の為の助成懇願のため署名運動を提案したい。

② 慶應大学(日吉)校門や壕要所に解説版を立て、一般の関心を高揚させては如何でしょうか。

慶應生協学生委員会  
《企画内容》

〔日時〕 11月10日(土)  
13時~16時

〔内容〕 初めの1時間で藤山記念館で寺田先生による地下壕の簡単な説明を聞いてもらった後、実際に地下壕にもぐってみる。

〔目的〕 組合員が地下壕にもぐり戦争の傷痕を見ることにより、身近なところから平和について考えるきっかけにしよう。

《総括》  
〔参加者〕 62名  
宣伝は不十分と思われたが食堂前の立て看板の効果が大きかったと思われる。また、組合員の平和への関心の高さを示していると思われる。

《アンケートの組合員の声》  
〔参加理由〕  
☆以前から、日吉の海軍の地下壕のことは聞いていたの

で一度、実際に見てみたかったから。  
☆平和への願いをこめてを説

地下壕見学子  
ツア— 松尾拓

んで以来、実地見聞してみ  
たかったから。

☆松代の地下壕に入ったこと  
があり、日吉のものも見て  
みたいと思ったから。

☆前から興味を持っていたの  
で。

☆戦争について興味があつた  
から。

☆あることは知っていたので、  
いつか入ってみたかったの  
で。

☆昔から入ってみたいと思っ  
ていた。

### 「参加しての感想」

☆予想外に荒れていなかった。  
☆有意義でした。品性の低い  
者が参加者の中に多少いた  
のが残念でした。一般応募  
だから仕方がないでしょう。

☆多人数すぎてうるさかった。  
☆戦時中がよく分かり、  
大変参考になった。

☆非常に良かった。日本及び  
慶大の歴史の重みを感じた。

☆ためになった。  
☆泥がすごかった。

☆人が多すぎて雑になりすぎ  
た。

### 「地下壕の感想」

☆今の状態のまま保存してお

くべきだと思った。

☆聞いていたよりも荒廃はし  
ていなかった。戦争の傷跡  
は直接は見えなかったが、  
これを作るためにどれほど  
の人命が失われたことか。

☆なんらかの形で周知してほ  
しい。

☆日吉にせよ松代にせよ、記  
念碑みたいなものがあつて  
もよいものだが、それらが  
何にもないのは少しさびし  
いような気がした。

☆思ったより小規模だった。  
あのような司令室から日本  
軍が太平洋に展開していた  
ことを思うと胸がいたくな  
る。

☆戦争・平和・日本のために  
戦った人々など、いろいろ  
考えさせられた。

☆もっと戦時中に使っていた  
ものが残っててほしかった。  
☆まだ残ってるなんてすごい  
と思った。

☆地下壕のつくりが想像以上  
にしっかりしていて、おど  
ろいた。しかしこれをつく  
る時の労苦を考えたら、

「こんなものまで作って戦  
争をする」ということに、

とても腹が立った。

☆神縄の壕に入ったことがあ  
るのですが、全く様相が違  
っていました。これほどの  
ものをつくるにはすごい人  
力が動員されたのでしょー

ね。七〇〇人という朝鮮人  
の数も納得です。でも、こ  
んなものをつくらなきゃい  
けないという時点で日本の  
軍部は何を考えていたのだ  
ろう？と思ってしまう。

### 《総括》

予想を遥かに上回る参加者  
があり、参加者の感想から  
も平和について考えるきつ  
かけとなったことは明らか  
であり成功であったが、細  
かい点で多くの課題を残し  
た。

### 《課題》

◇人数は二〇人ぐらいにすべ  
きだ。(人数制限の必要)

◇拡声器は絶対必要だ。

◇アンケートを書いてもらっ  
場所が必要だ。

◇日吉以外のキャンパスへの  
宣伝。

### 《提案》

人数制限をもうけ、前期・  
後期2回行う。団体は不可。

### 短編佳木依奴記

◆遅ればせながら新年お  
めでとうございます。  
今年も宜しくお願い致し  
ます。

◆12月上旬に第9号を  
発行する予定でしたが、  
とうとう年があけてしま  
いました。

◆今回も、地下壕見学会  
の感想文やご意見、アン  
ケートの結果など、沢山  
の原稿を頂きました。

◆また、プロジェクト・  
チームも関係した「日吉  
台地下壕利用計画策定調  
査」報告書が、区から市  
に提出され、掲載する記  
事が多くなり、8ページ  
になりました。

◆一昨年から世界は激動  
の時代に突入し、とうと  
うイラクで戦争が始まっ  
てしまいました。

◆第2次世界大戦の悪夢  
を見ているようで、私達  
の運動の必要性が、ます  
ます痛感されます。